平成 25 年 12 月　25 日

団委員長　殿

指導者・団委員会同（かいどう）参加者募集のお知らせ

（スカウトを減らさないための広報講座Ⅱ）

ボーイスカウト新潟連盟　組織拡張委員会
委員長　荒　井　誠　治

三指

昨年度実施した『スカウト活動の広報・ＰＲへの取り組みを研究し、学校新年度に向けた募集、また継続した活動などを考える広報講座「スカウトを減らさない広報講座」』を開催したところ多数の皆さんのご出席を頂きました。そして触発され各所でいろいろな取り組みが始まっています。
その際、この催しを継続して実施すべきとの声、さらに大勢の皆さんが参加することを期待する声がありました。それを受け、指導者だけでなく隊をサポートする団委員長および募集担当の団委員の皆さんと考える機会とするべく名称を「指導者・団委員　会同」として実施いたします。
講座の講師は広島の於保（おほ）さん。於保さんは中村知氏と共に海外のボーイスカウト書籍の翻訳、B-P の原文からの訳出などスカウティングの原理の研究をなされてきた方です。併せて日本連盟の動向などを、コミッショナー、トレーニングチームとの質疑応答なども交え、皆さんの日ごろの疑問を解消する機会としたいと考えます。団委員長におかれましては団委員長自身および傘下指導者、対象の団委員の皆さんの参加の促進を是非お願い申し上げます。

弥栄

記

１．日　時：平成 26 年 2 月 1 日（土）14:00 受付開始　14:30 開会
～　2 日（日）11:30 解散

２．会　場：新潟会館（公立学校共済組合新潟宿泊所）
住　所　　新潟市中央区幸西 3-3-1
電話番号　025（247）9307

３．参加対象者：団委員長、団委員、すべての隊指導者

４．参 加 費：
①1 泊 2 日　13,000 円（懇親会参加）
②宿泊なし　8,000 円（懇親会参加）
③日帰り　5,000 円（懇親会参加なし）

５．特筆すべき持ち物：スカウト歌集
指導者手帳（持っている人のみ）

６．参加申し込み：（締め切り日：1 月 17 日（金））
別紙申込書に参加者名等をご記入の上、事務局宛にお送りください。また参加費は締め切り日までに申込書記載の新潟連盟の口座にお振込み下さい。
（宿泊施設確保の観点から、申込書は可及的速やかな提出を望みます。）

スカウトを減らさないための広報講座Ⅱ スケジュール

2月1日	14:00	受付（新潟会館）	
（土）	14:30	開会式	
	15:00	基調講演「B-P の生涯とスカウト教育法」	於保信義氏
			（ｵﾎ ﾉﾌﾞﾖｼ）
	18:00	（終了）	（元広島県連盟）
	18:30	懇親会	

2月2日	7:00	朝食	
（日）	9:00	スカウト活動と広報・ＰＲの方法論	於保信義氏
			（元広島県連盟）
	10:00	新潟での実修所開設について	指導者養成委員長
		ＢＶＳ.ＣＢ部門の上進時期の変更について・他	本間県ｺﾐｯｼｮﾅｰ他
	11:30	終了、閉会式後解散	

講師略歴に代えて

今回の基調講演と講師をお願いする元広島県連盟所属の於保信義さん。

於保信義さんは新聞社に勤務されていたそうです。中村知氏（夜話のチーヤン）と共に海外のボーイスカウト書籍の翻訳するなど精力的に活躍され、B-P の原文を探し、スカウティングの原理の研究をされてきた方です。（於保さんが翻訳した「**B-P 最後の言葉**」について、2007 年に自身の記述をインターネットで見つけました。）

この文章を訳して気にいっている箇所がある。それは「**この世界をあなたたちが生まれてきたときよりもほんの少しでも良いものにして残す**」というくだりである。「**ほんの少し**」なら自分にもできないことではないかもしれない。さらに B-P は「**この世界を**」と言っている。
今年（2007 年）の世界ジャンボリーで参加者たちは同じ文句の「**ちかい**」を唱えたそうである。スカウト運動は世界的な広がりを持っている。世界には戦争や、病気、貧困 に苦しんでいる子どもたちが大勢いる。そうした子どもたちも幸せになるようにすること「**良いものにして残す**」ことにつながるのではないだろうか。
私もスカウトであった時代、一所懸命、進級しようとした。子どもであったから分からなかったのだ。考査科目は他の人を幸せにするためのものであって目的ではないことが。手段を目的にしてはならない。自分たちやその周囲さえよければいいということで、本当に幸せになれるだろうか。
「**物事の暗い面を見るのではなく**」と言っているのは無視するということではなく、どんな状況の中にあっても希望の光を見ながら、という意味だと思う。一人ひとりの力は弱い。
しかし、スカウト運動は、人握りの優れた人たちが作り上げてきたものではない。地位も名誉も、そして見返りも求めることなく、スカウトたちと活動をともにしてきた無名の人たちが努力した結果である。

この最後の言葉を繰り返し読んで実践し、幸せに生き、幸せに死にたいと思っている。

B-P 最後の言葉（翻訳　於保信義　2007. 9. 17）は、今、各地で開催される B-P 祭で見ることができ、セレモニーの中で聞くことができます。 B-P 最後の言葉の訳者の於保さんを通じて B-P が始めた時代のボーイスカウト運動に触れて「スカウティングを読んだ子どもたちが自然発生的に班を作り、大人の力を借りて隊になり・・・」と聞いた当時を垣間見、そして現代を、皆さんと考えたいと思います。

是非、皆さんご一緒に、広報講座Ⅱにご参加ください。